

**「2050年カーボンニュートラルに向けたビジョン（基本方針等）」策定に関する
速報版公表後のアップデートについて**

2022年2月9日

経団連事務局

- ・ 日本損害保険協会より、策定済みとの回答（2021年11月17日、2頁参照）
- ・ 日本ゴム工業会より、策定済みとの回答（2022年1月6日、3頁参照）
- ・ 日本アルミニウム協会より、策定済みとの回答（2022年1月7日、4～5頁参照）
- ・ 定期航空協会より、策定済みとの回答（2022年2月7日、6頁参照）

以 上

【ビジョン(基本方針等)の概要】

2021年7月策定

(将来像・目指す姿)

気候変動対応方針

一般社団法人 日本損害保険協会（以下「損保協会」）は、気候変動をリスクと成長機会の両面から捉え、我が国として 2050 年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことに賛同します。その実現に向けて、国および国際社会の取組みとの協調を図りつつ、次の気候変動対応を推進していきます。

- ・ 会員各社は、損害保険の引受、関連するサービスの提供、損保協会とともに推進している防災・減災取組み、E S Gの観点を踏まえた資産運用、お客さまとの対話などを通じて、気候変動リスクの緩和とそれへの適応に貢献するとともに、サステナブルな社会への円滑な移行を支援します。
- ・ 損保協会および会員各社は、自らの事業を通じて排出される温室効果ガスの削減に取り組み、脱炭素社会の実現を図ります。

(将来像・目指す姿を実現するための道筋やマイルストーン)

上記気候変動対応方針に基づき、以下の取組みを開始。会員会社を後押しするための取組みを順次実施予定。

- ・ 会員会社向け気候変動勉強会の開催（初回 2021 年 7 月、全 3 回）
- ・ 会員会社向け気候変動ニュースレターの配信（初回 2021 年 9 月、毎月 1 回配信予定）
- ・ 顧客向け気候変動ガイドブックの作成（2021 年 9 月）
- ・ 損保協会ホームページにおける気候変動ページの新設（2021 年 9 月）

(関連 URL)

気候変動対応方針

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/ClimateChange/index.html>

【ビジョン(基本方針等)の概要】

2022年1月策定

(将来像・目指す姿)

2050年までにCO₂排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルに貢献することを目指して、生産段階におけるCO₂排出量を2050年までに実質ゼロとする。

(将来像・目指す姿を実現するための道筋やマイルストーン)

ビジネスとの両立を図りながら、生産活動での様々な省エネルギー対策およびエネルギー転換による脱炭素化を進めていく中で、革新的技術を積極的に導入していく。更に残る部分は、CO₂回収・貯留や、吸収源整備やクレジット活用によるオフセットを実施する。

- ・2050年までのマイルストーンとして、2030年度目標の見直しを行ない、新目標(CO₂排出量を2013年度比で46%削減)を設定した。

(関連 URL)

日本ゴム工業会の地球温暖化対策長期ビジョン(2050年カーボンニュートラルへの取組)

https://www.rubber.or.jp/kanri/download.php?file=page2.1.51.pdf&org=vision_2050-20220106.pdf

【ビジョン(基本方針等)の概要】

2022年1月策定

(目指す姿)

持続可能な地球環境と脱炭素社会の実現を目指し、

1) 展伸材製造時

- ① 展伸材製造時の国内CO₂排出量実質ゼロを目指す。
 - ・展伸材製造時に必要なエネルギー（電力、燃料）によるCO₂排出量を最小化する。
 - ・排出したCO₂は回収、貯蓄、再利用等で脱炭素化を図る。
- ② 地金を含む展伸材製造時のCO₂排出量の最小化を目指す。
「国内のCO₂排出量」①に加え、海外からの新地金調達を最小化する（温暖化対策長期ビジョン（2050）による）。

2) 製品での貢献

軽量化や高熱効率などの特性を活かし、自動車や産業分野など幅広い分野でのCO₂削減に貢献する。

(目指す姿を実現するための施策)

(1) 展伸材製造時

1) 展伸材製造時の国内CO₂排出量実質ゼロを目指す。

<施策>

徹底した省エネルギーによるエネルギー消費効率改善に加え、

- ① 電力
 - ・再生可能エネルギー等の脱炭素電源を最大限利用する。
- ② 燃料
 - ・品質への影響が少なく、既存設備が利用可能な合成メタンや合成燃料への燃料転換を最大限実施する。
 - ・品質への影響を考慮し、非化石燃料（水素、アンモニア）への転換についても検討対象とする。
- ③ 排出したCO₂の回収や貯蓄、再利用等を行う。

2) 地金を含む展伸材製造時のCO₂排出量を最小化する

<施策>

- ① (1)に加え革新的生産プロセスの技術開発により、展伸材への再生地金の利用（資源循環）を可能とし、新地金調達の最小化により、新地金製造時のCO₂排出量を削減する。
 - ・展伸材に用いられる再生地金比率：10% ⇒ 50% 【シナリオ①】

② 世界のアルミ製錬の温暖化対策を考慮する。【シナリオ②】

世界のアルミ製錬はその電源構成の主力が石炭火力であることから、新地金の CO₂ 原単位が高い。そこで、世界的な温暖化防止の必要性から、IAI は IEA の 2°C および 1.5°C シナリオに対応して、2050 年の新地金の CO₂ 原単位を推計※している。

※ 「GHG Pathway 2050」(2021 年 3 月及び 9 月公表)

<参考：CO₂ 排出量削減の試算結果>

【シナリオ①】 49%削減、【シナリオ②】 86~97%削減

IAI：国際アルミニウム協会、IEA：国際エネルギー機関

(2) 製品での貢献

<施策>

アルミニウム材料は、その優れた特性により自動車や鉄道車両などの輸送機器、飲料缶、建材、機械部品など様々な分野で使用されている。

① 軽量化

自動車や鉄道車両など輸送機器へのアルミニウムの適用拡大による燃費向上により、走行時の CO₂ が削減する。

② 熱効率向上

アルミ、鉄、樹脂等を含め、熱交換技術を集中的に革新させることにより、CO₂ の削減に貢献する。具体的には、家庭用・業務用ヒートポンプ、給湯器、空調、燃料電池、自動車用熱交換器、産業用熱回収装置などへの適用が想定される。

(関連 URL)

アルミニウム圧延業界の 2050 年カーボンニュートラルに向けたビジョン
https://www.aluminum.or.jp/sys_img/files/1641517265_0.pdf

【ビジョン(基本方針等)の概要】

2021年11月策定

(将来像・目指す姿)

社会経済の基盤である航空運送事業を営むものとして、航空業界全体でCO₂排出量削減に積極的に取組み、2050年カーボンニュートラルの実現を目指す。

(将来像・目指す姿を実現するための道筋やマイルストーン)

新型機材導入並びに機材・装備品への新技術の導入、航空機運航方式の改善、空港車両等の脱炭素化を進めるとともに、持続可能な航空燃料(SAF/Sustainable Aviation Fuel)の導入推進・使用拡大によりカーボンニュートラルを実現する。

(参考 URL)

「航空業界として2050カーボンニュートラルの実現を目指します」(2021年11月5日発表)

<http://teikokyo.gr.jp/pressrelease/776/#section-1>